伯和西爾時報

發行所 伯和西爾時報社
電話 七〇四六七
社長 Director 石井清作 M Sameshima
購讀料 一ケ年 六十圓 半ケ年 三十圓
廣告御照會は御返信郵券御送付の事

珈琲 サントス四等 十キロ 一一、八〇〇 ノミナル 十キロ 一一、八〇〇
替 賣日 四、六六五 郵便送金 五、六八〇 對米 一九、七七〇 買米 七九、一〇〇

殘る難關現銀問題も了解
天津英佛租界懸案全く解決
十九日 我外相官邸で調印終る

（東京廿日同盟）天津英租界問題はその最後的難關として殘された現銀問題につき既の程漸く了解成立を見、又佛租界に關しても主として英國を介して日佛間に折衝を續け來つた所、フランスも遂に我方の眞意を了解、これ又圓滿解決に到達し、茲に英佛を一丸として天津問題は完全なる落着を見るに至った

十九日午後三時クレーギー英大使は外相官邸に於て有田外相と會見し、治安、通貨、現銀の三問題解決の覺書に調印を行ひ、一方同日午後三時半、有田外相とアンリー佛大使との間に昨年夏日英會談に於て兩國間に交換されたと同樣趣旨の天津問題の背景を爲す一般原則に關する覺書の調印が行はれ、更に廿日午前十時より有田、アンリー會談に於て天津佛租界内の治安、通貨、現銀の各問題につき解決、覺書の調印を完了されたものである、然して租界問題の解決は、治安問題の一部を現地に於ける解決に待つる事、及び現銀支出額を二十万ポンドとする以外はすべて英國側と同樣である

英租界問題 解決要項

（東京廿日同盟）廿日外務省發表

天津英國租界に關する諸問題につき昨年七月以來日英當局間に行はれたる談合の結果、左の諸項に關し意見の合致を見たり

一、治安維持 天津英國租界内に於ける治安の維持及び日本軍の安全に害ある一切のテロ活動防遏のため天津英國租界當局及び現地日本官憲間の一層緊密なる協力を行ふこと

二、銀貨及び銀塊 天津交通銀行に現存する銀塊及び銀貨は在天津日英當局總領事共同封印の下に引き渡き同銀行に有置されべし（以下略）

三、通貨 英國租界工部局參事會は英國租界内における中國聯合準備銀行券の使用に對し何等障碍をなさざるべし

情報部長談

東京廿日同盟 天津英租界問題解決に關する情報部長談 天津英國租界問題については昨年七月有田外務大臣、クレーギー英國大使間の覺書、昨十九日有田外務大臣クレーギー英國大使との間に右意見の合致を確認する手續を了するに至つた 且アンリー、フランス大使との話合の結果同日フランス側との間にも日英間と同樣な覺書則的了解が成立して以來、幾多の紆餘曲折ある交渉を重ねたる上 最近日英間に意見の合致を見たので、昨十九日有田外務大臣クレーギー英國大使との間に右意見の合致を確認する手續を了するに至つた 且アンリー、フランス大使との話合の結果同日フランス側との間にも日英間と同樣な覺書則的了解の成立と共に、治安問題及び通貨の諸問題につき、意見の一致を見るに至つたのである、今度成立した了解の結果、天津英佛租界面目維持の爲、租界當局が我民憲と充分協力する事に依り、租界が抗日分子の策動に濫用される事は殆んど後を絶つに至るものと確信する、又銀及び通貨の兩問題解決の結果未だ充分とは云へぬが

數日間飲まず食はず
喪家の犬の如く……スイスに逃げ込むフランスの人々
見るも痛まし八十キロの長途——足引摺る老幼婦女子の群

（マナン十九日同盟）六月十七日より十八日にかけて佛國東北地方からスイス國へ日掛けて續々と難民や逃走兵が無數に殺到してゐる、難民の大部分はミュールハウゼン、ドール、ジュラ地方より遠くは佛國中央部から毎日八十粁の道を歩いて來るのだ、老幼婦女は足を引摺り中には三日間も食ふに食なく屋に家なく、哀れな姿でスイス國境へ漸く到着食物を恵まれ、スイス人によつて救助されて居る、又逃走兵も毎日二三千人あり彼等はマジノ線からベルフォール地方に居たものであるが、食糧も弾薬も盡き數日間食はず飲まずで救ひをスイス國境に求めて來たものである、彼等は國境に於て武裝解除されたる後、或ホテルの姿きは百四十名の佛國商傷將校が居るなど同地方は一大混亂を呈してゐる

獨佛休戰條件内容

（羅馬十九日同盟）ボロ、デ、ローマ紙は十八日休戰に關する獨伊兩巨頭協議の休戰條件の内容を左の如く報道し注目を惹いてゐる

一、佛國は獨伊兩國軍隊による保障占領
一、佛國の機關、並びに外國クレヂットを獨伊へ引渡すべき事
一、領土ポーランド、ノールウエー、デンマーク、オランダ、ベルギー所有の在佛正貨並びに對外クレヂットを獨伊へ引渡すべき事
一、佛全軍需資財を引渡すべき事
一、產業活動の平常化を保證せしめる事
一、佛財政、經濟、產業の現機構をして獨英封鎖に要する資料を提供せしむる事

獨佛の媾和近づく
獨への全權使節派遣されん
獨の通牒、佛政府應諾

（東京廿日同盟）十九日の佛國務會議は、會議散會後停戰問題に關し、次のコミュニケを發表した

佛政府は十九日午前九時より、アブラン大統領司會の下に國務會議を開催、駐佛スペイン大使エルキーアー氏によつて手交されたる獨政府よりの通牒を了承した、右通牒に於て獨政府はフランス側の全權使節の御命が明らかにされゝば直ちに戰闘行爲停止の條件に就き、フランス政府に通告する用意ある旨表明した、獨政府は此等全權使節を速へるべき日時及び場所を通告する筈である

（羅馬十九日同盟）ボロ、デ、ローマ紙は十八日休戰に關する獨伊兩巨頭協議の休戰條件の内容を左の如く報道し注目を惹いてゐる

一、佛國は獨伊兩國軍隊による保障占領
一、佛國の機關、並びに外國クレヂットを獨伊へ引渡すべき事
一、領土ポーランド、ノールウエー、デンマーク、オランダ、ベルギー所有の在佛正貨並びに對外クレヂットを獨伊へ引渡すべき事
一、佛全軍需資財を引渡すべき事
一、產業活動の平常化を保證せしめる事
一、佛財政、經濟、產業の現機構をして獨英封鎖に要する資料を提供せしむる事

獨佛媾和全權使節を任命

（ボルドー十九日同盟）ペタン佛内閣は十八日夜 賀越佛節を任命した

佛媾和全權委員決定
二十日獨側委員と會見

（ボルドー廿日同盟）昨日佛國媾和全權委員は二十日午前中、獨乙側媾和全權委員と會見することになつた

佛政府 媾和全權使節を任命

（ボルドー十九日同盟）昨日佛國媾和全權委員は二十日午前中、獨乙側媾和全權委員と會見することになつた

佛、日本にあやまる
佛大使、十九日 援蔣中止を確約

（東京廿日同盟）佛印援蔣物資輸送狀況に對する須磨外報部長談 廿日

昨十九日午前在京アンリー佛國大使の來訪を求め佛領インド支那を通じて行はれつゝある援蔣物資の輸送禁止方に對し嚴重抗議を行つたところ、本日午後二時三十分同大使は外務省に在次官を來訪、佛印の對支物資輸送につき佛國側は既に十七日よりガソリン、トラック等の對支輸送を禁止したが、日本政府は厚く申出により、本日より極めて嚴重なる物資の輸送禁止を行ふことゝなつたる旨並びに日本側より現地調査員を派遣することは無論なき旨回答し、同四十五分辭去した、右會見に於て佛國政府は目下支那大陸に於て大規模の戰闘行爲が行はれてゐる現狀の事態を完全に承認し、又かゝる狀態が存續する限り支那における日本軍の安全を確保し、且つその警力下に在る地域における治安を維持するため特殊の要求を有すること並に日本軍を害し又はその權益を利用するが如き一切の行爲及び原因を排除するの要あることを認識し、佛國政府は日本軍において目的を達成するに當り、これが障害となるべき何等の行爲又は措置を起訴するの意志を有せず、この機會に於てかゝる行爲及び措置を構成すべき旨、在支佛國官憲及び佛國政府に命じ、以つてお政策を確認すべし

日本は佛印を占領しろ
Exigida a ocupação da Indo-China Francesa pelo Japão
朝野擧げて輿論昂まる

（東京廿日同盟）政友會と東方會は合同して政府に對し佛領印度支那の占領及び日本の外交政策は世界の新情勢に順應して行ふべき旨の決議文を送附した、御前日下日本言論界では日本は直ちに佛領印度支那を領有すべしとの論が高んである

獨機 英本土大空襲
被害少きも大衝擊與ふ

（倫敦十九日同盟）約五機よりなる獨空軍は十八日夜、イングランド南部地方に對し大戰闘機以來最初の大空襲を敢行し來つた、英國への襲撃は比較的少い程度だが獨空軍今回の大空襲は廣々獨空軍の勢威を誇示するものである

佛にまた政變？
レイノー内閣再登場か

（倫敦廿日同盟）佛國の確かなる筋よりの報道によれば、現在の佛國軍部及び一般國民の間に現内閣の政策に不滿を感じ不信任の聲が擧がつてゐる。デリーメール紙の報ずるは以前のレイノー内閣に再び政變され佛國は徹抗戰を繼續するものと見られてゐる

本格的攻擊を敢行するものとして英國民に衝撃を與へてゐる

ヒットラーと俺は世界の二大革命家
——バーナードショウの怪氣焔

（倫敦廿日同盟）例のバーナードショウ翁は八十年の間、時に沈默して居るが嶮々奇拔な警句を吐いて世界を笑はせて居る、彼は今回の歐洲戰につき若しヒットラーが大勝利を得れば歐洲は來の爲に非常な惨禍を來す、自分は是非一度ヒットラーと會見して話をして見たいと思つて居る、恐らくヒットラーを誠し教へる者は現在自分より他に居ないであらう、此地球上に於ては現在自分と彼とのみが大革命家であり、大勝利者である、彼はまたよ自分を知り自分もまた彼をよく知つて居る、即ち英雄は英雄を知るであるから容易に解決するであらう、と有はバーナードショウ翁だけの笑ひ話ではない彼は本當に英國が今度の戰爭に勝利を得なければならないと考へてゐるのである

彼へ教へてやりたい

（倫敦廿日同盟）例のバーナードショウ翁は沈默して居る

佛が和平條件承認迄
伊は佛の攻擊續く

（羅馬十九日同盟）伊國軍當局はヒットラー、ムッソリー會談の結果、先づ佛國に對し和平條件を提出し、佛國が攻擊を中止しないと國表した

◇ ◇ ◇

米また海軍大擴張
四十億弗 邦貨換算二兆七千二億圓で七割增強

（華府十九日同盟）

スタークス戰部長作戰部長は十八日第四次ビンソン案を審議中の下院海軍委員會に出席、海軍當局としてはビンソン案だけでは滿足せず更に總額四億二千億弗を以て現在の艦艇總噸數の七割を增强し、將來の總噸數を約百二十五万噸に達せしめんと欲するものである 右七割增强案は大体

一、主力艦二十八万五千噸（四万五千噸級主力艦の約八隻分）
一、航空母艦十一万五千噸
一、巡洋艦四十二万噸
一、驅逐艦二十五万噸
一、潛水艦 七万噸
一、補助艦 十万噸

の割合で建艦權限を要求せんとせるものである、海軍當局は右提案を直ちに取上げ、前例のない急速度を以て滿場一致これを提案した

世界指目 第一位
米海軍

（華府十九日同盟）作戰部長は第四次ビンソン案を審議中の下院海軍委員會に出席、海軍當局としてはこれだけでは未だ滿足せず更に總額四億弗を以て現在の艦艇總噸數の七割を增强し、將來の總噸數を約百二十五万噸に達せしめんと欲するものである 右七割增强案は大体

一、驅逐艦二十五万噸
一、潛水艦 七万噸
一、補助艦 十万噸

の割合で建艦權限を要求せんとせるものである、海軍當局は右提案を直ちに取上げ、前例のない急速度を以て滿場一致これを提案した

ルーマニア内閣總辭職

（ブカレスト十九日同盟）ルーマニア國王カロル二世は十八日急遽近親を召集、重要國議を諮ねたが、タラレスコ氏を首班とするルーマニア内閣は總辭職を決行した、カロル二世は事態の緊迫に應じ新内閣を組織せしめる事となつた

エジプト在住 邦人婦女子引揚げ

（羅馬十九日同盟）アレキサンドリアよりの情報によればエジプト在住の邦人婦女子は即時エジプトを引揚げるようエジプト政府より勸告を受けたと謂はれる、その内廿四名は既に十九日午前ポートサイドに到着した 一行は亀丸に乘船本國に引き揚げる

英佛共和國樹立案
佛側賛成の色濃し

（ボルドー廿日同盟）佛國政府では英佛共和國樹立案に賛成するものゝ如し

あばれ大名

（百三十）

旅路の卷

（波がしら）一ノ五

久我莊多郎 作
倉藤秀彌 畫

「支倉さま」

と、また呼んで

「御ひたりございました。お會ひいたしたりございましたも、それが白書でなかつたら人目といふものがなかつたら心も体も投げ出して、縫り付いてゐたことだらう。ヒシと抱き付いてゐたことだらう。が、白書、しかも、人通りのはげしい往還であつてみれば それが出來ないだけに、お田良、切ない心に身もだえするのである

と——その人である

形のよい編笠に、櫛捲な旅いでたちの凛々しさは、如何にもお田良が呼ぶやうに、支倉大三郎にソックリだが

「いや、お女中」

編笠が輝

ゆれた

「人違ひをして居られるのではないか」

「えつ」

「わたしは、支倉と呼ばれる者ではないが——」

「そ、そんな——」

と、お田良は、心につめたい針を感じて、口籠つた

笠の下からのぞいてゐる白い顎、丹の帳き唇——もつと深くにかゝやく凛とした眼は、支倉大三郎でなくて誰だといふのであらう

お田良は、一度は濕されんばかりの心を、強く踏みとゞまつて、やつとの想ひ、ホツソリした笑ひをふくんだ。

「御冗談ばつかり——」

「冗談ではない。先を急ぐ身だから失禮する」

その人が、そのまゝ横へ外れやうとするのを、

「お待ち下さいませ」

うろたへて、袖を執らんばかりにあとを追つた

「大三郎さま。それは あんまりな——あんまりでございます」

「——」

黙つてマヂ〳〵と目詰めてゐる人に、こちらは、詞葉のとほり恐めしさつばいで

「わたくし いつかのお約束を、怨しみにして暮りました。一情ないといふものでございます。夢なら——夢ならば、醒めてほしうございます」

「——」

「お田良のことなどは もう忘れたと仰有るのでございますか。あれは一時のなぐさみだつたと 仰有りたいのでございますか」

「お女中」

、女つて——女つて何でございます」

「お女中」

編笠の人は、いたく迷惑がつてゐる

明るい往還で、若い女から問ひかけずに、怨みつらみをいはれることは、それが人通

ひなら。まつたく迷惑なことだらう。實際、人が立ち止つて、面白さうに見てゐるのだ 何事かと、袖を引き合つてゐるのだ

「困る」

と、つぶやいた

「どう間へたものか、へんな勘ぐりを受けては閉口する 拙者は——」

「まだ、あんなこと」

信じ切つてゐるお田良には それが、イヨ〳〵もどかしくてならない。わたしが、こんなに思ひ詰めてゐるのに、と腹立たしくなつて

「何故さう、お澄ましになるのでございます。憎い、憎いお人。あなたは 門ふの船着場で、佐分利たちが待伏してゐることを、高松から助勢の人を呼んで來てゐることを、御存知ありますまい」

「なに？」ふと、心を捉へられたらしく、「こゝでは 誠も出來ない。お女中、あんたの疑惑を晴らさう爲めあれまで行かう」

先づ頑迷重慶を覆滅

積極的世界新秩序建設に驀進せよ

興亞議員聯盟關係各相に決議文を手交

將に皇國飛躍の秋だ！

〔東京廿日同盟〕聖戰下興亞議員聯盟は、廿日本部に外交及び政治、制度、財政、産業、貿易、交通、農林、水産、商工、文教、厚生、拓殖、興亞院、大政翼賛會等の各關係各相に對し、聯盟の遊説に伴ふ聯盟の外交國策について協議した結果、左の如き決議を行ひ廿一日米内首相、畑陸相、吉田海相、松岡外相を訪問し手交することゝなつた

今や世界舊秩序は根本的動搖を來し、これに代る新秩序の建設は必至的態勢となつた、宜しく我が國は東亞新秩序建設に邁進すると共に、世界新秩序建設に積極的態勢を採り、同志國家と協力するの外交國策を樹立すべきである、東亞新秩序を建設せんとすれば、先づ重慶政權を潰滅せしめなければならぬ、これがためには外界よりの重慶援助を封殺杜塞することが肝要である、佛印よりの援蒋ルートの遮斷を直ちに實行すべし、又香港の如きは實に重慶政府の出張所の感を呈し、情報の蒐集、對内、對外の宣傳、謀略、外界との交通等一切此處においてなされてゐる、我國は宜く英國政府に向つて斯の如き重慶援助の一切の行動停止を要求し彼若しこれに應ぜざる時は、嚴重なる海上封鎖を斷行すべきである

國民政府首腦整備

〔南京廿日同盟〕國民政府は十九日附開封、綏靖主任汪精衛、孫科文員下同、所各廠長を任命し、首腦の陣容を整備した

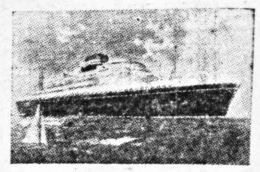
壯烈鬼神も泣く　嗚呼！松本機の自爆

荒鷲の華

十六日午後三時卅分重慶　散る

〔○○基地廿日同盟〕十六日の重慶爆撃行で壮烈な自爆を遂げた高橋部隊の松本、山本兩大尉機の奮戰振りは正に鬼神をして泣かしむるもので、重慶上空に達した我が荒鷲大編隊が常襲大編隊に喰ひ下り、この時既に編隊の要となつた重慶内の松本大尉は後續機を率ひて一路一路上空に達した我が荒鷲大編隊は松本機の直後に一發續いて機首を擡げた高橋部隊の松本、山本兩大尉機の奮戰振りは正に鬼神をして泣かしむるもので、重慶

名士や後續部隊を乘せ
話題賑やかにぶらじる丸
昨日リオに晴れの入港



〔九十三日を以て延長二万哩の波路を航破し晴れの處女航海を終へた、世界一周航路商船の豪華船我寺のぶらじる丸は、多數の名士と我寺の後續部隊を乘せ再度の旅に上つたが、歐洲戰亂の風浪高い太洋も物ともせず、悠々巨腹を押し切り、船腹に描いた日の丸も輝しく昨日リオに入港した

同船には拓殖省計畫課長森田千夫氏、皇學館同窓會編輯部長植田氏、二度目の來伯で今度永住と決めた久万俊泰氏、前日學生部々長マリオ・ミランダ君、日本學生部々長一行、及び東京醫工專講師から選抜され、ケープタウンから便乘した竹内氏は工藝品陳列會に出席、撮影に奔走する事になつてゐる

◇この前のあるぜんちな丸移民から多數のトラホーム患者を出して失敗したので今度のぶらじる丸には、神戸で嚴重な檢査を行ひ一人の患者も乘せてゐないが、航海中に二十名の結膜炎を出してしまひ男目の檢疫を海興さんでは心配してゐる

◇ぶらじる丸で歸つて來る筈だつた前日學生部々長マリオ・ミランダ君は日本がお國に召したと見えて分東京に滯在することになつた

◇日本は何故佛印、蘭印を占領しないのか

の動議出で時局問題に花を咲かせ、最後に本社生島記者のインチオと暮しての國下にインチオと共に原始生活をした體驗談があり一同喰ひ入る如くで十一時散會

尚ほ當夜の出席者領事館側成瀬領事、齊藤、野首副領、相澤、伊松、久本各書記生、鶴岡部、青木、北村（文）記者側十七名

瞼の父母を求めて
薄かうの乙女淋しく渡伯
サントス水上警察で身柄保護中

動亂の波高い太西洋を横切り一昨日サントスへ入港したポルトガル領ハイランド號のタラップを踏んで、下船する數多い乘客の中に、アンナ・ビクトリヤと言ふ今年十七才の乙女が交つてゐた、彼女はポルトガルの片田舎から或る同國人夫婦に伴なはれて來たものであるが、父母は今から十五年前、生れたばかりの彼女を殺し、住みなれた故郷ではあるがまた一面驅逐した農村を見限り、新しく運命の打開を求めて移民として渡伯した、勿論生活の安定を得た日には寸時も早く娘を引取る筈であつた、一方

Redação - Rua Fagundes, 196
Telephone 7-4670
Caixa Postal, H
Director M. Samesima

NOTICIAS DO BRASIL

Proprietario SEISAKU KUROISHI

Assignatura Anno. . . . 60$000
" Semestre . .30$000
Numero de dia . . . .300 reis
Gerente S. Kuroishi
Redator-chefe M. Yendo

ANNO XXIII — S. Paulo, — SEXTA FEIRA 21 de JUNHO de 1940 — DIARIO No. 2212

Exigida a ocupação da Indo-China Francesa pelo Japão

Enviada ao governo nipônico uma resolução dos partidos favoráveis a essa medida

TOKIO, 19 (Domei) — Os partidos Seiyukai e Tohokai enviaram uma resolução ao governo, propondo a ocupação da Indo-China francesa e que a politica exterior do Japão seja orientada de acordo com a nova ordem do mundo.

A imprensa tambem sugere medidas imediatas e decididas a assegurar os interesses japonezes na Indo-China francesa.

«O Japão deve tomar energicas medidas»

TOKIO, 19 (Domei) — O ministro de Ultra-Mar general Koiso, conhecido e ardente partidario da expansão japoneza até os mares do sul, durante uma conferencia que teve com o almirante Yonai, hoje á tarde, declarou que o Japão deve tomar energicas medidas diplomaticas e de outra indole, para affirmar o prestigio nacional neste momento decisivo.

Instrucções aos embaixadores em Roma e Berlim

TOKIO, 19 (Domei) — O ministro do Exterior, Arita informou que na sessão de hoje do gabinete, que foi secreta, foram dadas instrucções aos embaixadores japonezes em Berlim e Roma, para que iniciem negociações diplomaticas com os governos referidos, para a defesa dos interesses nipônicos na Indo-China-Francesa.

Substituição do actual governo por um gabinete reformista

TOKIO, 19 (Domei) — Durante uma reunião do Partido Nacionalista Minoritario foi aprovada a resolução para a ocupação protectora da Indo-China Francesa.

Foi tambem votada uma ordem do dia solicitando a união do Japão com as potencias do eixo e a substituição do presente governo por um gabinete reformista.

Recebidos pelo imperador

TOKIO, 19 (Domei) — O chefe do estado maior, principe Kanin, o ministro do Exterior, Arita e o ministro da Guerra, Hata foram recebidos em audiencia pelo imperador. Esses titulares informaram o soberano sobre os ultimos acontecimentos.

TOKIO, 19 (Domei) — Comquanto os círculos nacionais continuem dando importancia ás informações provenientes do estrangeiro, especialmente de Rome, segundo as quaes as condições de paz oferecidas pelo sr. Hitler e Mussolini incluem a cessão da Indochina ao Japão, os meios politicos duvidam que o governo de Tokio esteja disposto a iniciar agora uma acção energica no Pacifico Sul, justificando esse ponto de vista com as seguintes considerações:

1 — O Japão ainda se acha em luta com a China, julgando-se inconveniente assumir, no momento, os novos riscos militares que a occupação da Indochina acarretaria; 2 — Os moderados que estão no poder preferem que o eixo se comprometta a não alterar o «statu-quo» do Pacifico Sul, sem seu consentimento ou sua participação; 3 — Os moderados acreditam que a Allemanha e a Italia possam reservar para si mesmas parte dos despojos do Pacifico Sul, caso em que a linha de acção japoneza poderá ser muito diferente da que propugnam os meios germanophilos do Japão; 4 — A attitude dos Estados Unidos não é clara, crendo-se que o Japão esteja provavelmente sondando Washington, afim de saber se aquelle paiz tem no «statu quo» da Indochina o mesmo interesse manifestado quanto ás Indias Hollandezas.

Não obstante os circulos familiarizados com a politica interna do Japão não occultam a repercussão que tiveram sobre ella os ultimos acontecimentos da Europa, manifestando-se cada vez mais intenso nos meios nacionalistas, isto é, entre os partidarios do eixo, o clamor contra a politica dos srs. Arita e Yonai.

Edição Brasileira

Traducção dos artigos principaes em lingua japoneza

A Capitulação da França

Quando foi da tomada de Arras, Amiens e Abbeville, reuniu-se apressadamente o Conselho de Guerra dos Alliados. Do que houve nessa reunião pouco se divulgou. Em Londres, porém, o sr. Winston Churchill proferiu um discurso lugubre. Não fazia revelações, mas pelas suas meias-palavras se infere que qualquer coisa de muito grave se occultava ao publico. Disse o illustre estadista: «O nosso Imperio combate o inimigo em toda a parte. No continente, ao lado da França; aqui nas ilhas, se esta fôr ceifada; no Canadá, depois e noutra faixa de terra onde tremule o nosso pavilhão». E mais adiante: «Tenho confiança na França, onde o indomavel primeiro ministro nos assegurou absoluta solidariedade e no transe amanhã que atravessamos um exercito de dois ou tres milhões de homens não se abate com facilidade».

Ora, estas ultimas expressões davam a perceber que, nas altas espheras dos alliados, existiam sérias e intelligencias. Qual a natureza delas, era difficil adivinhar. Os radios de Berlim referiam-se ao assumpto com muita insistencia. Elles affirmavam que o general Gamelin não se combinara com o general Gort acerca de uma manobra. Verdade ou fantasia a noticia, o facto é que o ex-generalissimo deixou o posto, indo para o seu logar o general Weygand, chamado do Oriente Proximo. A batalha da Flandres e o seu resultado calaram fundo entre os habitantes dos dois Imperios. O envolvimento de enormes forças, levado a cabo pelos invasores, fora de uma ousadia excepcional. Mas não se comprehendeu, em momento tão tragico, com a inactividade dos exercitos separados, que se achavam ao sul do Somme e do Aisne. Uma contra-offensiva se impunha, segundo a opinião dos technicos. Ella chegou a ser annunciada com estrepito, mas não se realisou. Durante os calamitosos dias de Dunkerque, espalharam que taes exercitos separados se organisavam para uma defesa em extremo, numa nova e poderosa linha. Essa linha foi quebrada em quasi toda a sua extensão: os tanques massiços, que haviam transposto o Mosa, tambem transpuzeram, com o mesmo desembaraço, os canaes, como são a jusante, o Somme e o Sena. Nessas condições, Paris estava ameaçada. Alguns elementos officiaes mostravam-se acerrimos, de exisores da capital, como em junho de 1870 e em Setembro de 1911, no entanto, outros receiam-se a uma discreção, que a principio se suppoz que era por calculo. Não era. Nos pastiores já se resolveu considerar Paris cidade aberta, o que representava a confissão facita da impossibilidade de se proseguir na refega. Não convencia a ninguem a allegação de que ella não tinha importancia estrategica. Para a defesa do paiz a sua capital foi sempre tida como uma praça de guerra. Ainda na sexta-feira escrevemos: «Dentro em breve, tudo leva a crer que não estará mais as esquerdas a ligação entre as forças, que se transferiram para a retaguarda, e as que se encontram nos fortes e casamatas da linha Maginot». E com effeito foi o que se verificou. Cahiu Verdun, cahiram fortalezas da fronteira e os teutonicos alcançaram a Suissa, contornando todo o formidavel systema defensivo, que custou somma fabulosa.

De Tours ou Bordeus, Paulo Reynaud reiterou uma mensagem ao presidente Roosevelt, solicitando a remessa immediata, não de homens, mas de material, como tanques e aeroplanos. O chefe da nação norte-americana não se conteve indiferente, por muito tempo. Com a possivel rapidez, respondeu que o auxilio de material estava seguindo e continuaria a seguir. Quanto a soldados, não lhe competia decidir, porque lhe faltavam competencia para tanto. Não era este o desejo do chefe do gabinete gallez? Por certo que era. No intimo, duvidavamos da eficacia do auxilio, visto como os vencedores se esforçavam por evitar qualquer veleidade do prosseguimento da luta, por parte de tropas abatidas e cansadas. Tal tarefa não lhes seria empresa de monte.

No começo, a noite, Paulo Reynaud tenta formar o gabinete. Marechal Pétain organisava um gabinete de que participavam os radicaes-socialistas e os grupos da direita. Era o fim da guerra? Não se deprehendia isso dos informes officiaes, espalhados pelos radios. Os dizos informes falavam no enthusiasmo com que fôra acolhido entre o povo o advento do heroico censor de Verdun. Homens pela manhã, porém, desfizeram-se as illusões dos sympathisantes do grande paiz. O Marechal Pétain, por intermedio do general Franco, entrava em tratos com o Reich e proclamava que a França se vira na contingencia de cessar as hostilidades, alludindo a uma paz honrosa. Que poderá ser, no momento, a paz? Na Allemanha, ha uns tres dias, somente se admittia uma capitulação pura e simples. E quaes as consequencias de uma capitulação dessa natureza? Parece que a iniciativa de Pétain foi tomada á revelia dos partidos politicos, que têm a maioria no Parlamento, como o socialista e o communista. O ultimo bateu-se pela paz, assim que começou a luta. Os seus chefes, que devem ser postos em liberdade, em virtude da nova feição dos acontecimentos, pensarão da mesma forma agora que a Russia tambem se movimenta e já occupou a Lithuania, Lettonia e Esthonia?

O estado-maior allemão annunciou «muitas surpresas» para esta semana que começou. De facto, já temos duas sensacionaes: o rompimento da linha «Magiaot» e o collapso do governo da França. Não haverá outras «surpresas» daqui para o futuro?

LEIA O NOSSO
KODOMO NO SONO
Suplemento do jornal "Noticias do Brasil"

O NOTICIARIO ESTRANGEIRO DO «NOTICIAS DO BRASIL» E' FORNECIDO PELA AGENCIA TELEGRAPHICA «DOMEI» JAPONEZA

家庭

唯ひとつの愛情
妻を永刼のものにする

妻を信じたいならば、まづ夫を信じさせることである。技巧によつてではなく平素の心境と行狀から、自然に妻の心中に信を築くのである

といつても妻の僞につきまつて機嫌をとれといふのではない。夫が妻にだけ與へる特殊唯一の愛情を確實に專有してゐれば、妻は夫を信じ得る。

妻の愛に限い夫の直操を立てゝくれることは寶玉にも優る贈り物である。この寶玉を守るためには妻は命を懸けても惜しまない。妻に信じられてゐる夫は、靈犀を職業に過さうとも先立つて死亡しようとも永久に妻を所有することが出來る。妻の嫉妬は無教養や病性から來てゐるのでなければ、夫を信じると共に高度化され、他の女性との交際で友情を樂しむことを嫉げはしない。愛の眞の巢なるのを認めるからである。

それなのに男は、友愛の實質を性愛一色へ引き込んで妻を裏切ることがある。男性は多面的な女房一人では不足であると慾情を主張するならば、女性は一人の性愛を全部要求する有機的なことを知つて欲しい。

それを天から孕け得ない場合は他の事でまぎらすであらうが、時には一切の束縛をすり抜けて新しい愛の所在へ飛らないとも限らない「七人の子を生すとも女に心を許すな」とは妻に信じられない寶玉の叫喚である。

母親の榮養が強い齒をつくる
◇……食物への注意が第一

ムシ齒は食物の殘滓が乳酸にかはり その乳酸が齒の表面を冒しそこにいろいろな細菌が侵入するからです、そこで口中をしておくことが必要です、ちよつと不思議に思へるのは嗜好品もなく齒ブラシもない時代にムシ齒のなかつたことです、それは榮養が全く自然に順應した生活をしたからで近代の文化生活はこれらに調理を加へる時間と費用とをかけて却つて齒に必要な榮養を失つてゐるのです

「強い齒」はまづ母親が作るので、嬰兒中の注意が肝要といふことになります

生れ出る子供の齒を強く

する榮養には勿論嬰兒中の母親自身の齒が强健でなければいけませんが、それには母親の食物に關する注意が何より大切です、その心得の第一は鹽食を避け、鹽食を守り、消化の惡い食物強い刺戟を持つ香味料、アルコールなどを、嬰兒に禁じねばなりません、殊に榮養素の一つ、あるひは配合される成分が著しく母親の子供の身體や齒に影響を及ぼします

從つて骨か石灰化する上に必要な榮養素であるカルシュムと燐とビタミンとが不足しないやう、特にカルシュム分は十分に攝取いたしませうこの嬰兒後百十日で嬰兒の齒の芽が出かけますからそのころから母体のカルシュムが血液を通じて十分に嬰兒に與はらなければ嬰兒の骨や齒の完全な發育を見ることは不可能です

嬰兒が大きくなつてカルシュムの必要量が殖えると、勢ひ母体はカルシュムの缺乏を來し易いから注意していいます

カルシュムに富む食物では昆布、ヒジキ、ワカメ、ノリなどの海藻類、その他魚の小骨、牛乳、人參、筍、ワラビ、その他野菜類などです 燐を含む食物は牛乳、卵、肉類、魚や、ねぎなどの

（母親の）

一つ、あるひは配合される成分が著しく母親の子供の身體や齒に影響を及ぼします

從つて骨か石灰化する上に必要な榮養素であるカルシュムと燐とビタミンとが不足しないやう、特にカルシュム分は十分に攝取いたしませうこの嬰兒後百十日で嬰兒の齒の芽が出かけますからそのころから母体のカルシュムが血液を通じて十分に嬰兒に與はらなければ嬰兒の骨や齒の完全な發育を見ることは不可能です

嬰兒が大きくなつてカルシュムの必要量が殖えると、勢ひ母体はカルシュムの缺乏を來し易いから注意していいます

ものはA—卵黄、牛乳、人乳、大根葉、牡蠣、ほうれん草 C—トマト、玉ねぎ、キャベツ、レモン汁、青豆菜類、ビタミンに富むものはA—卵黄、牛乳、人乳、大根葉、牡蠣、ほうれん草 C—トマト、玉ねぎ、キャベツ、レモン汁、大根、夏蜜柑など、D—卵黄、鰯、鮭、紫外線によつて効力を生じたもの、牛肉か麥などです これらのものを偏食しなければそれでいゝわけです。

かくて健全な齒をもつて生れた子供は齒を磨くことによつて乳齒を保存し つぎに嬰兒永久齒の丈夫な基礎を作つておくことが大切で、興亞の國民にふさはしく齒の丈夫な子供を作るのは一に母親の双肩にかゝるといへます。

長壽讀本

長命したいのは人情の常、さ様ならば滋養を食べた人が如何にすれば健康で明らかな余生を送り得るか フイラデルフィヤのランケノー病院のエドワード・ボルツ博士の發表した健康十訓は次の如きものである。

一、食事は控へ目に、果物野菜を多くとるべし

一、毎日少くとも一升の水を飲むべし

一、肉体 神經 感情に疲れず一定時間の休養を與ふべし

一、努めて苦勞を忘れよ

一、高血壓の原因たるべき憎惡と嫉妬の感情を抱く勿れ

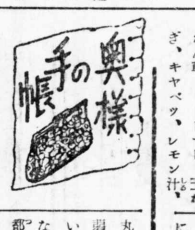
一、ユーモアを失ふ勿れ

一、毎日智能の向上を期すべし

一、出來るだけ腦汎に亘つて讀書すべし

一、決して驕慢すべからず銷びつくより減る方がましだ

田樂燒



材料（五人前）海鼠一本、豆腐二丁、里芋十個、味噌大匙四杯、砂糖大匙四杯、レモン一個、竹串二十本位

（イ）海鼠はタバコの箱位の大さに切り、ざつと茹でておきます、里芋は皮をむいて丸のまゝ軟か茹で豆腐は薄い豆腐は串に刺せませんからなるべく固いものを求めます 台で絞り豆腐でも結構です。

（ロ）味噌はよく摺つて砂糖を混ぜ水か酒を少々加へて練り易くのばし、レモンの皮を千切にして入れます。

（ハ）串に各々一個づつ刺し火にかざし 溜まつたら味噌を塗り再び焼いてほんの味附が焦げたところを頂きます

時報原稿用紙

十五字詰二十行、紙質上等、體裁優美、殿鑑し書き好い原稿用紙です

百マイ 二・ル 切手代用可

パンの縁の固い所や古く固くなつたもの、利用法

パン粉にするのは誰方も御存じですが鑑に入れて溜めて置いてそれをお鍋に入れて水を注ぎ ドロ〳〵にして糊よ 煮ますそしてていねいにするにはパン粉にかけてミルクバタ砂糖を入れてお味をつけて頂きますといつても美味しいおハつにもなり父雛乳期の赤ちやんなどによい食料でございます

社告

新申込（新聞新購）

日伯兩語で住所姓名を御明記下さること

轉居 郵函變更 發送方法變更

等を通知下さる時は必ず新舊共に住所姓名を御明記下さる樣以上御願まで

伯刺西爾時報社 發送部

燃ゆる星座

尾崎士郎 作 非五郎 畫

（百五十二）罠（六）

元夫に捨てられた由紀子は、何の的もなくたゞ丸の内へ向いて歩を運んでゐた。

由紀子の胸の中は、考へていつぱいになつてゐる。誰にこの相談をしてみやうか、工藤より外に相談する相手があるとも思へぬ、だが、さう思ふとそれだけで胃腑が悪くなる。然しこんな話を、その外の者に持ち込んでゆけば、工藤よりも更に悪い事態が待つてることは 充分に想像できることである。せめて、誰かに相談たけなりと借りたい。

「あゝあ、連也さんは、どうしてゐらつしやるのだらう」

と思ふと、直ぐ追ひかけてせめて一度會つて話たいといふ氣が突き上げてくる

（何處に現在はゐられるのかしら？）

戀人が現在は何處さへも知らずにゐられる自分の惨めさが、たまらなく眼はしい心地で見送される。すると、どうしても、せめて現在の住所だけでも知つてをかねば目身に觸して濟まといふ氣がしてくるのだ。（どうしたら、知れるだらう？）

由紀子は立止つてしまつたそこは、何時の間に繁華の中心地で来たのか、東京線の陸橋口近い陽差しの中である。公衆電話が直ぐ眼の前に立つてゐるのを見ると、由紀子は當もなく電話室へ入つて行つたが、何當りがつき出せない。

由紀子は焦立たしい心地で宜し加減に開いた頁を眼で追つて、見知ぬ他人の名を辿つてゐた。人の名前、住所、職業と、まつたく無味もなく見てゐる裡に、ふと甲服裏、といふ文字に出會つて、はつと氣がついたのだ。（さう！世に報ぐる者を甲服した本圖へ問へば判るに相違ない！）

これに氣附いた由紀子は「いませうかしら——實田鎌」から明日帰京で東京へ參りましたので——はア、相違みません 由紀子は眼を擦つて、おつと耳を澄ま體を聞くしてゐた。動けないのだ。いまが大切な運命の瀬戸際——さう思ふとこの電話の長い。

よ。「はい、は、、別ありまして？ それはどうも、は、一寸お待ち下さいまし」

片手でハンドバックを開く、小型の高價なシャプ鉛筆を出して、バックの蓋の裏へ書きつけた

「は、葛飾區、高砂町、二〇一五の は？ 何でございます？ お寺でございますネ。レイガシイン——あ、もしもし」通話時間が切れたのが断れた事話を惜めしさうに眺めんでみたが、仕方のないことで、また後いで掛けようかとも思つたが、それは思ひ止まつて、由紀子は外へ出ると、さてどうしようかと、入資靈の流れる空を仰いで考へるのであつた

農家用
小農具のいろく

▲野菜用中耕除草機 中耕除草機 巾一七センチ 十ミル
野菜用 攪拌機 巾一〇センチ 八ミル 中耕機
▲押切 大型四五錢 小型三五錢
▲接木用ナイフ 一本一八錢
同日本式小刀 一本 六錢
▲剪定鋏 上等 二三錢 並等 一五錢
果樹用金ハケ 一個 一〇錢
剪定鋏—日本製 一本 一〇錢
移植コテ 一本一〇錢—七錢
ラフィア 百尺 三錢
果樹手入の特殊の農具類
時報商事部
C. Postal H - S. Paulo

YAMASHITA LINE
山下汽船株式會社
往路 極東—桑港—南米—定期航路
復航 南米—ニューオルレアンス—羅府—極東
太平洋岸、フィリピン行貨物輸送引受申候
使用船壹萬噸型新造優秀貨物船
山浦丸 復 七月一日頃
山風丸 往 八月廿日頃 復 九月九日頃
南滿丸
山里丸 往 七月九日頃 復 七月廿七日頃
山月丸
山霧丸
詳細は左記際社代理店に問合せ下され度候
（貨物艙に付き旅客運送は勝手ながら御斷り申上候）
サントス市 JOHNSON LINE AGENCIES
Praça da Republica 22 Telephone 4694 e 5107 Santos
聖市 L. FIGUEIREDO & CIA.
Rua Libero Badaró, 92 - Phone 2-7125 - S. Paulo

パール
レストランテ
Av. S. João, 128 - R. Anhangabaú, 36
AO PINGUIM
酒は
ヒンゲン井
ルーヤシルメンコ・ソウモルア
鈔三
時一から時七夜はラストケーオ
も間靈は日休曜日
電話 4-5597 電話 4-2626

日本からの銀行を調べたい方は幾らかの前金を送付して下されば迅速正確に御調べ致します
時報商事部
地方取次所 リンス、マリリア プ・アルデンテ 時報支社